（様式Ｃ－５６－５）

（両面印刷：おもて面）

# 平成２６年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）実績報告書

平成　27年　2月　12日

独立行政法人　日本学術振興会理事長　　殿

| 課題番号 | ２ | ６ | ０ | ０ | ４ | ５ |
|---|---|---|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 主催団体所在地 | 〒600-8107<br>京都市下京区五条通新町東入東鋳屋町167 ビューフォート五条烏丸3階 | | |
| 主催団体名 | 公益社団法人<br>日本放射線技術学会 | 代表者職名 | 代表理事 |
| | | 代表者氏名 | 真田　茂　　　　印 |

平成２６年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）**研究成果公開発表（B）**について、下記のとおり補助事業の実績を報告します。

| | | | |
|---|---|---|---|
| ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ・学術講演会名 | 平成26年度市民公開講座<br>放射線に対するリスクの正しい考え方－放射線と上手に付き合うために－ | | |
| 実施主体（支部等） | 公益社団法人<br>日本放射線技術学会<br>学術委員会 | 代表者職名 | 学術委員長 |
| | | 代表者氏名 | 土`井　司 |
| 開催日 | 平成 27 年 2 月 1日（ 日 ）～平成 27 年 2 月 1日（ 日 ）　（ 1 日間） | | |
| 会場名 | 大宮ソニックシティ　　開　催　地：埼玉県さいたま市 | | |
| 参加者数（※交付申請書に記載した参加予定者数） | 134人<br>（ 150人 ）※ | | |

費目別収支決算表

| | 合　計 | 会場借料 | 消耗品費 | 人件費・謝金 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 実支出額の使用内訳 | 1,400,165 円<br>(165 円は利息) | 157,746 円 | 0 円 | 0 円 | 1,242,419 円 |
| 交付申請書に記載した補助金の使用内訳 | 1,400,000 円 | 120,000 円 | 20,000 円 | 50,000 円 | 1,210,000 円 |

（両面印刷：うら面）

| | |
|---|---|
| シンポジウム・学術講演会の目的 | 放射線に対して国民が不安を抱く原因は、「放射線のリスクを正しく理解していない」ことにある。放射線検査が拒否された例で考えると、“原発事故によるリスク”と“医療被ばくによるリスク”とを混同してしまっている。医療被ばくの場合、“行為の正当化（ベネフィットが必ずリスクを上回っていなければならない）”と呼ばれる原則がある。一方、原発事故による被ばくでは、ベネフィットは存在せず、“リスク（本来は避けられるべき不要な被ばく）”のみが存在する。したがって、原発事故による被ばくにおいては、エビデンスを用いてリスクのみを評価する必要がある。また、報道で頻繁に取り上げられる1 mSvや20 mSvという数値も、独り歩きを始めたことにより混乱を招いている。“管理基準”としての数値と“生体への影響”とを混同していることが、混乱を招いている理由である。さらに、その数値に対する根拠の説明が十分でないため、一般市民に正しく理解してもらえていない現状となっている。<br>そこで本講座は、一般市民を対象に「放射線に対するリスクの正しい考え方」をテーマとし、放射線と上手に付き合ってもらうために必要な基礎知識を教授することを目的として開催した。 |
| シンポジウム・学術講演会の概要 | プログラムは2部構成とした。<br>第1部では、「放射線と放射能に関する基礎的な内容（放射線と放射能の違い・単位・環境中に存在する放射線）」と「医療における放射線利用」に関しての講演を行った。「医療における放射線利用」の講演では、放射線検査（X線CT, PETなど）が一般に広く知られるようになったものの、がん治療に放射線が利用されていることを認知している一般市民は多くないことに着目して概説した。この点に関しては、放射線のベネフィットについての説明として、これまでとは異なるアプローチであり、新たな試みであった。<br>第2部では、「放射線の人体影響」「医療被ばくと他の被ばくとの違い」「報道されている数値はどのように決められているか」について詳細に解説した。さらに、第2部の最後には、本講座の最大のテーマである「放射線に対するリスクをどう捉えれば良いのか」について、リスク認知における人間の心理特性や一般的なリスクの考え方の視点から解説した。原発事故以降、リスクコミュニケーションという用語をよく耳にする。リスクコミュニケーションでは、ある正しい知識のみを絶対的な答えとするわけではなく、市民一人一人が出す答えそれぞれが正しいと考える。本講座では、この点についても解説し、答えを出す一助となる情報を提供できた。 |



| | |
|---|---|
| 主催団体の事務連絡者 | 〒600-8107　京都市下京区五条通新町東入東錺屋町167　ビューフォート五条烏丸3階<br>所属・職名　事務局　事務局長　TEL:075-354-8989（内線なし）<br>氏名　宮高　睦　FAX:075-352-2556<br>E-mail: master@jsrt.or.jp |